

享保七年銘道標付庚申塔



〔登録年月日〕昭和六〇年三月三〇日  
 〔種別〕有形文化財（建造物）  
 〔名称〕享保七年銘道標付庚申塔  
 〔点数〕一基  
 〔所有者等〕個人  
 〔所在地等〕久我山五一九―二〇

## 享保七年銘道標付庚申塔

人見街道沿いの分岐点に東向きに建てられている。総高一四二・五cm（塔身部一一六cm）の駒形の庚申塔である。石質は安山岩で、台石はコンクリート、表面に風化はみられるものの破損はほとんどない。

正面中央に六臂の青面金剛像を浮彫りにし、青面金剛の上部に日・月・足下に一邪鬼・二鶏、その下部に見・不言・不聞の三猿を彫る典型的な構図である。

塔身の最下部に「小村文右衛門」他七名の願主名が列記され、向って左側面には「享保七壬寅歳十月 日」の年号銘がある。

また、塔の右側面に「これよりみぎ、いのかしらみち」、左側面に「これよりひだり、ふちうみち」と井の頭、府中への道標が刻まれており、道標付の庚申塔としては区内最古の例である。

この庚申塔が弁才天信仰にかかわるものか否かは明らかではないが、今日までほぼ元位置を動いておらず、江戸時代における久我山地域の交通事情および社会構成を伝える資料の一つである。

### 【文化財所在地】

